CASBEE_Sapporo2014v1.2
（仮称）白石区移転新複合庁舎購入地複合施設新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル：　CASBEE_Sapporo2014v1.2
■評価ソフト：　CASBEE札幌2014（ver.1.3）

スコアシート　実施設計段階　　重点評価項目　■A：省エネルギー　■B：省資源　■C：緑化　■D：雪処理

配慮項目	重点評価項目 A	B	C	D	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	重み係数	住居・宿泊部分 評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.4
Q1 室内環境							0.40	-	-	3.3
1 音環境						3.1	0.15	3.0	1.00	3.1
1.1 騒音						3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音						3.3	0.40	3.0	0.40	
1 開口部遮音性能						3.0	0.65	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能					階段室、吹抜等に、耐火遮音壁ハイパーウォールZを使用。	4.0	0.35	3.0	0.30	
3 界床遮音性能（軽量衝撃源）						3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能（重量衝撃源）						3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音						3.0	0.20	3.0	0.20	
2 温熱環境						3.0	0.35	3.4	1.00	3.0
2.1 室温制御						3.0	0.50	3.8	0.50	
1 室温						3.0	0.44	3.0	0.57	
2 外皮性能	A				室内への熱侵入配慮を行い、日射遮蔽性能および断熱性能について	3.0	0.21	5.0	0.43	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.35	-	-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境						3.0	0.25	3.8	1.00	3.0
3.1 昼光利用						3.0	0.63	3.0	0.30	
1 昼光率						3.0	0.24	3.0	0.60	
2 方位別開口							-	3.0	-	
3 昼光利用設備	A					3.0	0.76	3.0	0.40	
3.2 グレア対策						3.0	0.12	3.0	0.30	
1 昼光制御	A					3.0	1.00	3.0	1.00	
2 映り込み対策										
3.3 照度					全般照明で300lx以上を確保	3.0	0.06	5.0	0.15	
3.4 照明制御					照明制御盤・器具等で照明制御ができる	3.0	0.19	5.0	0.25	
4 空気質環境						4.1	0.25	5.0	1.00	4.1
4.1 発生源対策						5.0	0.50	5.0	0.63	
1 化学汚染物質					F☆ ☆ ☆ ☆をほぼ全面的に採用	5.0	1.00	5.0	1.00	
2 アスベスト対策							-		-	
4.2 換気						3.4	0.30	5.0	0.38	
1 換気量					建築基準法を満たす換気量とした。	3.0	0.45	5.0	0.33	
2 自然換気性能					自然換気有効開口面積を床面積の1/50以上確保	3.0	0.11	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮					空気取入口を汚染源のない方位とし、各種排気口は6m以上離れて設	4.0	0.45	5.0	0.33	
4.3 運用管理						3.0	0.20	-	-	
1 CO_2の監視						3.0	0.45	-	-	
2 喫煙の制御						3.0	0.55	-	-	
Q2 サービス性能						–	0.30	-	-	3.5
1 機能性						4.1	0.40	3.0	1.00	4.1
1.1 機能性・使いやすさ						3.9	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性						3.0	0.10	3.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応					OAフロア設置。OA機器用容量を40VA/㎡以上確保。通信配線スペー	4.0	0.10	5.0	-	
3 バリアフリー計画					バリアフリー新法の建築物移動円滑化誘導基準を満たしている	4.0	0.80	-	-	
1.2 心理性・快適性						4.1	0.30	3.0	0.40	
1 広さ感・景観					事務室の天井高2.5m以上確保し、窓を設置。	3.0	0.37	5.0	0.50	
2 リフレッシュスペース					リフレッシュスペースを執務室の1%以上設置	4.0	0.16	-	-	
3 内装計画					カラースキームを作成し、建物のコンセプトをインテリアにも展開し、照明と連動し	5.0	0.47	1.0	0.50	
1.3 維持管理						4.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計					防汚性の高い材料の選定など、維持管理に配慮した設計を実施。	5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保					シンクや管理倉庫など維持管理用機能を確保した。	4.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務							-	-	-	
2 耐用性・信頼性						2.8	0.30	-	-	2.8
2.1 耐震・免震						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.0	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		B				3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		B				3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		B				3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		B				3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		B				3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						2.2	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						1.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						2.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						2.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性						3.3	0.30	5.0	1.00	3.3
3.1 空間のゆとり						4.2	0.30	5.0	0.50	
1 階高のゆとり					3.9m以上の階高を確保	5.0	0.60	5.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ					壁率比を0.3以上確保。exテナント11：算出式（12+0）/306＝0.039	3.0	0.40	5.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					2900N/㎡～3500N/㎡の積載荷重を確保。	3.0	0.30	5.0	0.50	
3.3 設備の更新性						3.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性						3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性						3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性						3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性						3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性						3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保						3.0	0.20	-	-	

CASBEE_Sapporo2014v1.2
（仮称）白石区移転新複合庁舎隣接地複合施設新築工事

■使用評価マニュアル：　CASBEE_Sapporo2014v1.2
■評価ソフト：　CASBEE札幌2014（ver.1.3）

[　　] 欄に数値またはコメントを記入

スコアシート　実施設計段階　　**重点評価項目**　■A：省エネルギー　■B：省資源　■C：緑化　■D：雪処理

配慮項目	重点評価項目 A	B	C	D	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	重み係数	住居・宿泊部分 評価点	重み係数	全体
Q3 室外環境（敷地内）						–	0.30	-	-	3.5
1 生物環境の保全と創出			C			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			C		隣地複合庁舎と外壁、塗装色、外構タイルを合わせ、バランスよく調和	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮						4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				D	中規模のピロティを設けて都市空間の活動上のアメニティ向上に貢	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		B	C			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性						–	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー						–	0.40	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制	A					3.0	0.20	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用	A				共用部について吹抜空間を経由して自然換気を採用した。	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化					BEI　非住宅 ー　住宅（専有部） ー	3.8	0.50	-	-	3.8
集合住宅以外の評価(3a.3b)	A				BEI値0.9以上確保	3.8	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)	A						-	-	-	
4 効率的運用						3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価						3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	A					3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	A					3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価							-	-	-	
4.1 モニタリング	A					5.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制	A					5.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル						–	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護						3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水					節水コマ、節水型便器を採用。	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用						3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無						3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無						3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減						3.5	0.60	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減		B				3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		B				3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		B			ー	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		B			床：陶磁器質タイル、ビニル系床材	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		B				2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		B			躯体と仕上材を分別可能とし、内装と設備を錯綜させないようにした。	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避						3.5	0.20	-	-	3.5
3.1 有害物質を含まない材料の使用					さび止め、塗床材について有害物質を含まない材料とした。	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避						3.3	0.70	-	-	
1 消火剤		B			不活性ガス消火剤を設定した。	4.0	0.33	-	-	
2 発泡剤（断熱材等）		B				3.0	0.33	-	-	
3 冷媒		B				3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境						–	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		B			LCCO2排出を一般的な建物と同程度とした。	3.2	0.33	-	-	3.2
2 地域環境への配慮						3.2	0.33	-	-	3.2
2.1 大気汚染防止		B				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		B	C	D		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制						4.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		B				3.0	0.33	-	-	
2 汚水処理負荷抑制						-	-	-	-	
3 交通負荷抑制					一般車両と契約車荷捌車の利用階を分離した。	5.0	0.33	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		B		D	ゴミ庫を設置し、分別回収を計画した。	4.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮						3.6	0.33	-	-	3.6
3.1 騒音・振動・悪臭の防止						3.0	0.40	-	-	
1 騒音						3.0	0.33	-	-	
2 振動						3.0	0.33	-	-	
3 悪臭						3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制						4.4	0.40	-	-	
1 風害の抑制					風シミュレーションを行い建物配置を行った。	5.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制						3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制						3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制						3.3	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						3.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策					日影のシミュレーションを行い、東面にアルミルーバーを設置した。	4.0	0.30	-	-	